

# 2019年の農業経営のポイント

## — 農業経営費および採卵養鶏経営に注目して —

研究員 野場隆汰

2021年7月に農林水産省から公表された「営農類型別経営統計」を主な資料として、19年の農業経営の動向について振り返り、そのポイントをみていく。

なお、19年の「営農類型別経営統計」の調査結果では、調査票の記入方法が変更されたことから18年の調査までには計上されていない項目が含まれている。本稿では、過年度比較をするため、農林水産省が19年の数値を18年以前と同一の基準で推計した結果に基づいて記述する。また、本稿で扱うデータは19年までのものであるため、20年初頭から発生している新型コロナウイルス感染症の影響は反映されていない。

### 1 農業経営費が近年増加傾向にある

まず、全農業経営体の1経営体当たりの農業経営収支の推移をみると、農業粗収益が869.8

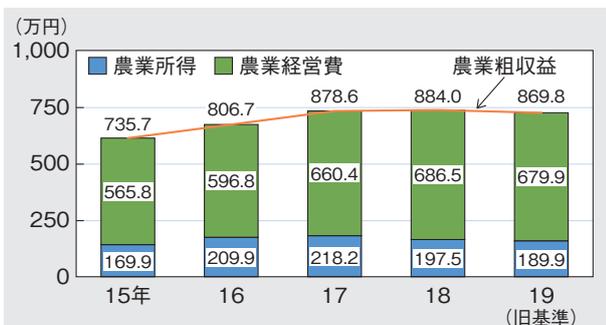
万円(前年比増加率△1.6%)、農業経営費が679.9万円(同△1.0%)で、農業所得は189.9万円(同△3.8%)となっている(第1図)。

このうち、農業経営費に注目すると、19年は前年と比べて微減となるも、15年から17年までと比較すると高水準となっている。

19年の農業経営費の内訳は、飼料費(構成比15.5%)や肥料費(同5.2%)といった農業生産資材費や雇人費(同10.4%)が大きなウェイトを占めている。そこで、農林水産省が実施している「農業物価統計調査」から農業生産資材の価格指数をみると、17年(指数98.8)から19年(同101.9)にかけて上昇傾向にある<sup>(注)</sup>。品目別にみると、飼料価格が17年(同92.4)から19年(同97.3)にかけて上昇している。その他、肥料・光熱動力などの価格も高止まりしており、農業経営費を膨張させた要因の1つと考えられる。

また、雇人費に係る指標で、厚生労働省が公表している有効求人倍率をみると、農林漁業の数値は15年(1.16)から19年(1.56)にかけて上昇しており、職業全体(15年：1.08、19年：1.45)よりも高い水準で推移している。また、日本政策金融公庫農林水産事業本部が実施している「農業景況調査」によると、農業の人手の過不足感を表す雇用状況DIでも、15年(△26.3)から19年(△34.9)にかけて人手不足を示すマイナス値が続いている。これらの点からも、農業分野での人手不足が少なくともここ数年は改善がみられず、農業経営上の障害となっていることがうかがえる。

第1図 2019年の全農業経営体の農業経営収支の推移(全国・1経営体当たり)



資料 農林水産省「営農類型別経営統計」  
 (注) 1 15年から18年までの数値は、経営形態別経営統計(個別経営)および経営形態別経営統計(組織法人経営)の集計結果から推計した値である。  
 2 19年の数値は、営農類型別経営統計(全農業経営体)の公表値を基に、1と同一基準で試算した結果(旧基準)である。

**第1表** 2019年の主な営農類型の農業経営収支

(単位 万円、%)

	全農業経営体	水田作	施設野菜作	酪農	養豚	採卵養鶏
農業粗収益	869.8	310.8	1,470.3	8,463.9	20,394.9	21,276.9
農業経営費	679.9	270.4	1,018.4	5,418.3	17,441.5	22,545.6
農業所得 (前年比増加率)	189.9 (△3.8)	40.4 (△44.2)	451.9 (△16.9)	3045.6 (+108.2)	2953.4 (+57.5)	△1,268.7 (△262.4)

資料 第1図に同じ

## 2 採卵養鶏経営が赤字となる

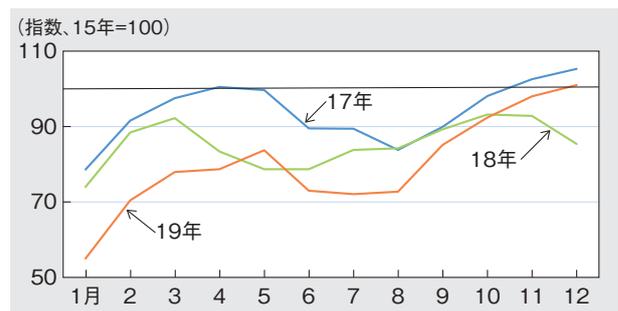
19年の農業経営収支について、営農類型別にみても、水田作や施設野菜作など多くの類型で農業所得が減少しており、酪農や養豚など一部の類型を除いて、19年は全体的に農業経営にとって厳しい一年となった。とくに全13類型のうち、採卵養鶏のみが農業所得が赤字となった点が目立っている(第1表)。

その主な要因としては需給緩和による鶏卵価格の下落があげられる。15年あたりから鶏卵の価格は高騰し、その後数年間、養鶏農家では飼養頭数増加の動きがあった。その結果として、18年末ごろより鶏卵の供給量が過剰となり、価格低迷が引き起こされた。

鶏卵の価格は季節的な需要の増減に応じて、夏季に下がり、秋から春季にかけて安定していくというのが大体の傾向である。しかし、19年は年始の段階で価格が落ち込み、春季も平年並みまでの回復がなかった。秋季を過ぎたあたりから、生産者側の供給調整や自然災害の影響などにより出荷量が減少したことで持ち直しが図られたが、19年全体としては低迷の一年となった(第2図)。

こうした事態に加えて、主に大規模経営化

**第2図** 鶏卵(M、1級)の月別価格指数の推移



資料 農林水産省「農業物価統計調査」

が進められている法人経営体において、先述の農業経営費の増加が重なり、採卵養鶏経営の農業所得は赤字となった。

## 3 農業経営環境は不安定な状況が続く

本稿で確認してきたような農業物価や労働力の雇用といった農業経営を取り巻く環境は、近年悪化している。全農業経営体の農業粗収益、農業所得はともに17年までは増加していたが、18年に入ると農業所得が減少に転じ、その流れは19年でも改善されていない。そして、20年以降も農業経営にとっては不安定な状況が続くとみられ、加えて新型コロナウイルスの影響も数値に反映されることになるため、その動向には、引き続き注視が必要である。

(のば りゅうた)

(注) 農業生産資材価格指数を含む農業物価指数は、15年の年平均の価格を基準値(100)として、農産物や生産資材の物価を指数化したものである。